

民話「鼻の助太郎」をシンボルとした 集落の結束

～真南条下に伝わる民話～

地元主人公の屋敷跡もある
正直者の鼻利き助太郎の出世物語



真南条下農業生産組合
(愛称:すけたろう農園)

真南条下の概要

H22.3.31現在

1. ロケーション

篠山市街（篠山城跡）の南側に位置し
城南地区の南西部

2. 世帯、人口

（農業従事者数）

世帯数	38戸	(30戸)
人口	109人	(60人)
高齢者率	44.0%	(61.6%)

3. 耕作面積

2,436.1a (24.4町歩)

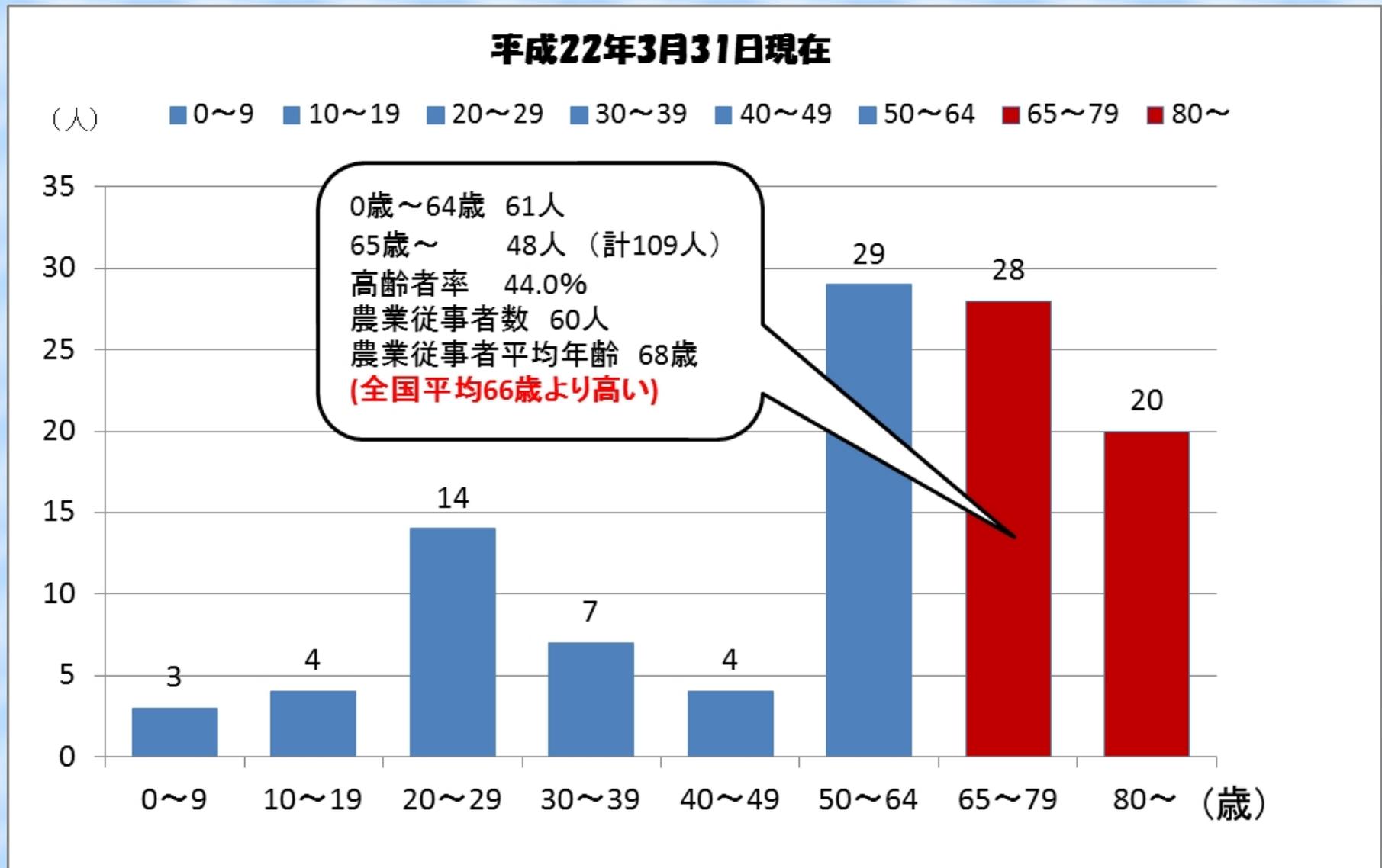


★城南地区

篠山市の校区



真南条下集落の年齢分布



真南条下集落の長所、特徴

1. 共同意識が強い
2. 集落として、自治会長を中心に農会長が営農活動をリードして来た
3. 篤農家が多い
4. 圃場、農道、水路、ため池等農用施設が整備されている
5. 機械の共同利用を長年やって来た
6. 氏神様、菩提寺の他、多くのお社があり、現在も祀っている（八幡・諏訪・稻荷神社、毘沙門天など）

真南条下集落の農用施設



きつい勾配の高陸畔



水田を潤す溜池(落水時)



獣害防護柵



手入れされた各種の野菜

真南条下集落の施設と管理状況



獣害防護柵の点検・修理



ため池の落水



黒大豆の害虫防除



耕作放棄地の田畑共同作業

真南条下集落の短所、弱味

1. 農業後継者不足

5年から10年先の営農活動が危ぶまれる

2. 鳥獣害による生産意欲の減退

猪、鹿、鳥に加えアライグマ等の異常繁殖により被害増大

3. 高齢化による作業負担大

地形的に高畦畔、急勾配が多く、年々草刈作業が厳しい

活動基金確保の取組み

共同利用を基本に基金の造成をして来た

1. **とも補償金の積立**
(昭和60年頃～)
2. **新設改良事業**
(平成8年頃)
3. **中山間地域等直接支払い制度**
(平成12年～継続)
4. **農地・水・環境保全向上活動**
(平成19年～継続)

農用施設・機械の導入

購入原資は、鉄骨倉庫と草刈機を除き中山間地集落協定基金等を活用

施設	面積	備考
獣害防護柵	2.4km	猪、鹿対策
鉄骨農具倉庫	38m ²	自治会資金活用
テントハウス	60m ²	

農機具	台数	備考
乗用トラクター	1台	28PS
※付属機器		
ロータリー	1台	
代掻きハロー	1台	
デスクプラウ	1台	
畦付け機	1台	
草刈機	1台	農・水・環活動基金より
乗用田植機	1台	5条植えに更新
コンバイン	1台	4条刈
黒大豆脱粒機	1台	
動力噴霧器	1台	
溝切機	1台	中干し用
石抜機	1台	



今までの取組み(その1)

共同利用田「すけたろう農園」開設

集落の交流、農業技術の継承を狙いとして集落伝承の
民話「鼻の助太郎」を冠した農園を開設。
神戸大農学部生のフィールド演習にも活用



共同田「すけたろう農園」
あぜ際のひまわりが通行客を楽しませた



神戸大農学部生のフィールド演習風景

今までの取組み(その2)

都市・大学との交流

城南地区(12集落)まちづくり協議会の交流活動に積極的に参画

- (1) 神戸大農学部生のフィールド演習を通して大学との交流
- (2) 神戸市灘区成徳小学校区とのまち・むら交流
都市での模擬店による農産品販売により
将来の販売チャンネル拡大を狙う



神戸大農学部生のフィールド演習(田植えの体験)



都市での農産品販売

今までの取組み(その3)

地域の特産品づくり

地元の民話「鼻の助太郎」を冠した、**すけたろう菜**、**すけたろう米**の拡販、その他関連商品の開発。



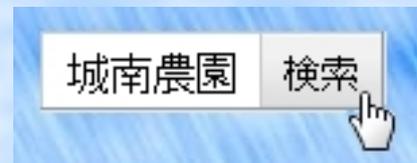
今までの取組み(その4)

ネットショップ開設

品揃えが出来るよう、城南まち協で開設した
「ネットショップ城南農園」に参画し、販売開始

(平成22年10月~)

都市との交流を通して模擬店等と絡め販売チャンネルの
拡大を図る。(灘成徳地区の広報誌にも掲載)



今までの取組み(その5)

集落住民の交流の場

女性に協力してもらい

(1) 農業祭「すけたろう祭」開催

平成22年度の第3回から名称変更し農業講習会、
農産品品評・即売会、既存・導入予定農機の紹介
郷土食材をふんだんに使った食事会

(2) 黒大豆みそづくり

受託農地の拡大



すけたろう祭



黒大豆みそづくり

今までの取組み(その6)

草刈マップ活用 (環境保全活動広報誌に掲載)

畦畔、農道の草刈が負担が年々増大している。狙いは、

- (1) 共同意識の高揚
- (2) 草刈の責任範囲の明確化(個人と共同の)
- (3) 省力化等負担軽減への取組み
トラクターへの脱着式草刈機導入(平成22年度~)
(主に農道、稲作後のひこばえの刈取にも拡大利用)
- (4) 地域の景観向上・防犯対策



草刈マップ



トラクターに装着した草刈機

今後の取組みのコンセプト

1. 農業を取り巻く環境への対応

農業にとってTPPへの厳しい選択を求められている。
政策に関わらず、集落内に留まらず、周辺の集落と
知恵を出し、少しでも農業改革につなげていく

2. 最後のチャンスと捉える

当面定年退職者が続く、今がチャンス。
危機感を持って取組む

3. 着実に、無理な計画は組まない

失敗は許されない。全員の理解のもと、今までの機械の
利用で培ってきた、協同の精神を活かし、
次のステップへレベルアップを図る

当面の取組み

農産品生産後の**ムダ**（余剰品廃棄）、**ムラ**（需要と供給のアンマッチ）を**排除**し、コミュニティ・ビジネスにつなげたい

1. 都市との交流

都会との模擬店等から段階的に**販売チャンネル・拡販の増大**につなげる

2. 女性参加の事業

農業祭、味噌作りを契機に食品加工の技術情報の収集、パートナーづくりをしコミュニティ・ビジネスにつなげる

3. 商品開発

民話発祥の地を活かしたネットショップ等の販売方法の活用により、すけたろう菜に続く農産品、食品開発

今かかえている問題

【人】

- (1) 経験豊かな人材がいるが、高齢化とともに意欲の減退が懸念される
- (2) 集落全員の取組みで進めて来たが力が分散し発揮出来ていない。
参画する者と外部で協力する者に分け組織の有り方について検討が必要

【物】(設備)

- (1) 水稻の刈取りまで共同利用が出来たが、乾燥以降、個人の乾燥機を有効活用して来た。作業場(作業拠点)を作るか、外部に委託等の選択肢の中で大きな判断をする必要がある。
- (2) 黒大豆等の省力化設備の導入
採算性のある作物の育成のため、設備の増強

【金】

- (1) 資金投入が負担になり、足かせにならないか心配
補助事業後、事業が事業収入によって更新する計画だが、事業量(面積)が不足
- (2) 農業経営の経済性に対する理解活動が出来ていない
共同利用料と個人収支との連結による経済性の評価が必要
- (3) TPPの動向等、行政の支援策が見えない

事業継続のための工夫

1. 計画書、議事録等の文書化

計画書のない実践は、航海でなく漂流

2. 活動費の予算化

事業への意欲につながる

3. 達成感の共有

功績に対する正しい評価、皆の前で、喜びを分かち合う

4. 各種研修会への参画

5. 資金稼ぎ

コミュニティ・ビジネスとして、資金稼ぎにつながる仕組みを構築農産品の即売、ネットショップ等

6. 潜在の能力の戦力化

先進地の見学等外部との交流、講師の招聘等

今後の日程(案)

現在

	内 容	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
(農・水・環)活動 体制整備構想	成案に向けた見直し		案☆	成案☆		
中山間地等 直接支払制度	・2期の課題のフォロー ・3期の要件の実施	2期		3期		
規約・細則作成	だれが、どこで… を決める細則の作成		規約見直	細則		
組織の形態	・集落と参画者の関 連 ・農地集積・拡大 ・乾燥以降の施設拡 充			検討		
研修	・若いオペレータ育成 ・主婦の活動場所確 保					
組織立上げ			機械共同利用		新組織	

「鼻の助太郎」でふるさとの愛情を育み、
集落のみんなが楽しく農業を続ける仕組みづくり

今後共、篠山市農林課、丹波農業改良普及センター、
丹波ささやま農業協同組合のご指導をお願いいたします